

冬から春へ、文芸館では新展示になりました。

特別収蔵展 【浜松ゆかりの女性作家



たかの 鷹野つぎ展～その生涯と作品】

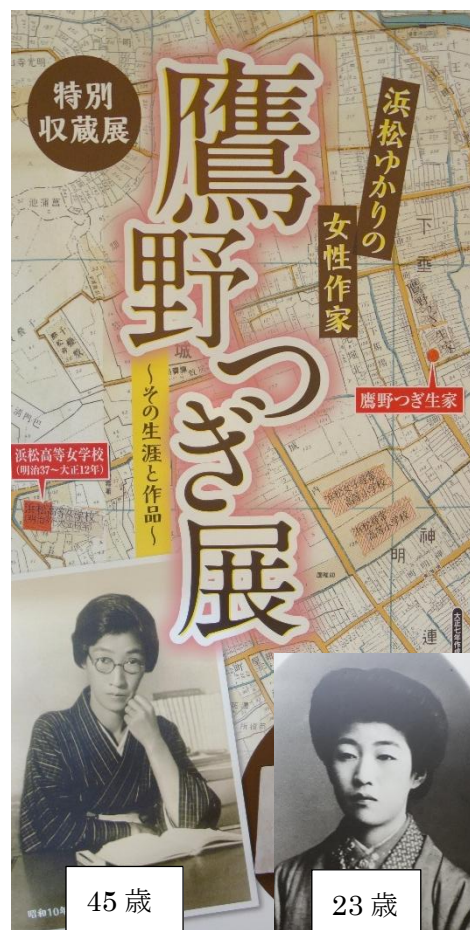
令和7年3月1日(土)～6月15日(日) 9:00～17:00

* 入場料無料

現在の尾張町に生まれ、浜松高等女学校(現在の浜松市立高校)を卒業した少女は、文学青年鷹野弥三郎と出会い、夫婦となります。新聞記者の夫の転勤に伴い、豊橋、東京、福島、また東京と生活拠点が変わる中、新聞や雑誌へ文筆作品を投稿。やがて、島崎藤村に認められ、大正11年、33歳の時、小説集『悲しき配分』が新潮社から出版されます。当時、数少ない女性作家の文壇デビューでした。

しかし、大正12年9月の関東大震災後は、夫の失職、自身の病気、子どもたちとの死別…といった苦難に見舞われます。闘病の中、作家仲間との交流、雑誌への寄稿、そして随筆集や小説集の出版を続けました。第二次世界大戦中の昭和18年、54歳で肺結核のため亡くなりますが、晩年に執筆した故郷浜松での思い出集『四季と子供』『娘と時代』は、評価が高く、復刻本が制作されています。

★今回の展示では、つぎの母校である浜松市立高校の協力を得て、生涯を年表や写真で振り返る他、作品の一端を味わえるように、作品本文抜粋の拡大掲示や鷹野つぎ著作全集、復刻本の閲覧ができるコーナーを設けました。



展示室

★つぎが執筆のために書いたス

ケッチ付きの草稿や生原稿、愛用した机、様々な文化人との交流の証となる書簡など…普段目にする事のない品を展示しました。

「郷土の生んだ作家“鷹野つぎ”とその郷土愛あふれる作品を知ってほしい！」文芸館スタッフの願いです。なお、令和6年度十湖賞俳句大会の受賞作品も紹介しています。ぜひお越しください。

本の閲覧コーナーが4か所 明治大正時代の浜松や尾張町復元地図も展示しています。